

- 役員活動**
- 役員会・理事会(月1回)
 - 防災訓練・まちづくり懇談会(10月)
 - 新春のつどい(1月)
 - 自治会加入促進活動(通年) など

- 青パト交通安全防犯パトロール(月1回)
- 環境浄化パトロール参加
- 防犯キャンペーン参加
- 交通安全街頭活動、啓発活動
- 防犯啓発活動

交通防犯部



- 防災部**
- 普通救命講習会(年1回)
 - 連合自主防災隊 総合防災訓練(10月)
 - 防災無線通信訓練(月1回)

- おやま広報発行(年3回)
- 地区連HP運営(通年)
- 市連HP情報提供(通年)

広報部



など、さまざまな活動が予定されています

事務局

令和2年度に地区連主体の「事務局」を設置し、より地域に密着した事務活動を円滑に行います。

令和2年“ふるさとまつり”開催中止について

例年9月に「盆おどり大会」と「運動会」の2本立てで行っていた小山地区ふるさとまつりについて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止が叫ばれる中、令和2年度の開催について行うべきか、中止にするべきか、年度当初から検討を行いました。

各自治会や公民館の部会、関係団体へのアンケートによる意識調査の結果などを勘案し「地域の親睦については来年度以降も取り返しがつutura、参加される地域の皆さんの健康に関してはかけがえのないものである」と判断し、開催を中止することとなりました。

毎年のことで楽しみにしてくださっていた皆様にとっては非常に残念なお知らせとなり、心苦しい限りですが、令和3年度は今年度の分もあわせて盛大に行えるようにしたいと考えています。

地域の連帯でコロナ禍を乗り越えましょう

今年早々から国内はもちろん世界中を巻き込んだ新型コロナウイルス禍は、子どもから大人までまさに無差別に感染が進み、いまだに衰えを見せません。**密閉・密集・密接の3密を避け**、なんとしてもこの困難な時期を乗り越えて行きたいと願っています。

密閉とは、窓がなかったり換気ができなかったりする場所のことで、身近なところと言うと会議室や地域の多目的室等、塾や図書館、映画館、カラオケボックスなどがこれにあたります。**換気の程度が重要とされます**。窓やドアを1時間に2回以上数分間開けることが大切です。家庭用エアコンでは換気は行われていないため、これらの対策は必要です。

密集とは、人がたくさん集まったり、少人数でも近い距離で集まることです。「テーマパークや大型の商業施設、スーパー、学校、喫茶店、レストラン、ライブハウス、電車、喫煙所等」がこれにあたる考えられています。十分な距離(2メートル以上、最低でも1メートル)を保つようにしましょう。

密接とは、互いに手が届く距離で会話や発声、運動などをするを言います。密接はどんな場面でも起こります。職場、飲食店、公共交通機関内での会話や、グループでのランニングやウォーキング、スポーツジム内で多数での運動などです。密接の対策は、会話、発声、運動などの際に、十分な距離を保ち、マスクを着用することです。

～自治会長 新年度の抱負・所感～



宮下自治会長 大嶋 幸夫

今年度より会長を務める事になりました。私、出身は福島県いわき市・フラガールの街です。子供の頃は常磐炭鉱住宅「長屋」に住んでおりました。毎日のように「〇〇さん味噌賞して!」「〇〇さん醤油ある?」近所の皆さん、自然に声を掛け合い・助け合い、家族・親戚のようなお付き合いでした。

当自治会のテーマである『向う三軒両隣』私には忘れられない貴重なフレーズです。時を戻して、『高齢者・ミドル・若年代』枠を越え、お互い遠慮することなく声を掛け助け合いつつ『明るく・楽しく・安心できる街』づくりができるよう努めてまいります。『コロナ禍だからダメ』と言わないで『どうすればできるのか?』前向きに考え『ウィズ・コロナ』の下、徐々に自治会活動も活性化を取り戻せるよう努めてまいります。



すすきの自治会長 渡 静夫

今年度は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が出され、自治会の活動も休止の状況でのスタートとなりました。

すすきの町には(寿寿喜の会、すすきの自治会、すすきの子供会)年齢別に3団体があります。この3団体が手をつなぎ多様、多様な地域活動に対応していきたいと思ひます。

「笑顔・明るく・楽しく」をモットーに地域の会員との交流を図り、安全安心の町すすきのをめざして自治会活動を進めてまいります。

すすきの向陽自治会長 江口 基明



すすきの向陽自治会は、現在も高齢化が進む中、役員の後継者問題で今後の活動継続をしていく為には…と、新たな課題が出ているのが現状です。今年度のこの厳しい状況の中、さらに新型コロナウイルスの影響で、上半期の行事がすべて中止になりました。(お祭りが3年連続中止)地域の方々との交流や、安全・安心まちづくり活動の停滞の危機感を持ち昨年実施しましたアンケート調査(活動継続について)の意見・要望を基にこの先、「何をすべきか」・「どの様に進めるか」役員一同で真剣に考えると共に、地域活性の情熱を維持し、自治会活動を進めてまいります。



久保原自治会長 丸山 和加恵

総務省のアンケートによると6割を超える人が何らかのかたちで住民同士、困った時に助け合いたいニーズがあると分かったそうです。でも現状、自治会加入率は低下しています。

それは自治会活動が住民のニーズとかけ離れているからではないでしょうか。「例年通り!」に甘んじず問題点を探り解決策を考えてきたことにより、現状に見合う組織へと変わりつつあります。誰もが負担を感じず自治会の運営に関わるようなシステム作り。会員同士の小さなコミュニティーを大切に、防犯・防災への強化。この2点を踏まえ、「住んでいて良かった笑顔あふれる自治会に」を目標にみなで活動をしていきます。

相模原駅前自治会長 今関 邦雄



前会長の星さんに代わり就任となりましたが、このような時期に交代し、やらなければいけない事とやっではない事判断に苦慮しています。防災訓練、お祭りの開催の有無など様子をみながら判断していきます。

私はすすきの保育園、向陽小、旭中とここに生まれ育ちましたが自治会とはあまり関係なく生活してきました。

4,5年前から区役員から本部役員のお手伝いをするようになり現在に至ります。自治会のこと駅前のことを全て理解している訳ではありませんので皆様の協力がなければなりません、昨今、自治会が消滅する地区もありますが私は自治会が必要なものと考えています。行政で補えないものを自治会で協力し生活しやすい町にしていきたいと考えます。権利を主張するまえに義務の遂行がついてきますが行政への申し入れなどより良い町づくりに貢献していきたいと思っています。

丸山自治会長 菊池 敏文



自治会長として3年目を迎えました。この2年間は、地区連等団体の多種多様な地域活動に関わることが多く、苦楽を味わいました。新年度は、新型コロナウイルス感染症による対策のため丸山自治会行事が軒並み中止となり、子供達の明るい声も鳴りをひそめ悲しくも寂しい状況が続き、耐え忍ぶ年になりそうです。このような状況にあっても「住民の住民による住民のための自治会」をモットーとして明日への希望を持ち続けていれば必ずや明るく楽しい日常を「麒麟」が持ってやってくることに期待しております。

向陽町自治会長 田村 浩志



小山地区で最も会員数の少ない自治会で、財政的にも自治会活動の担い手においても、難しい面はありますが、小さいからこそ利点もあると思ひます。それは、会員の皆様の顔が(状況が)見えやすいということです。これからも隣近所とのコミュニケーションを大事にし、住民同士のあいさつや会話を通じて何でも言える雰囲気・環境づくりに努めていきたいと考えています。そのような日常の積み重ねが連帯感を生み、絆が強化され、それが地域の安全・安心につながり、ひいては、災害時の対応に大きな力になると思ひます。まちをきれいにすることは、治安の向上につながるとも言われますが、今後も地域の美化活動に取り組み、地域環境の向上を目指してまいります。

氷川町自治会長 武井 弘吉



3月の新旧合同委員会で、新年度の区組長を選出し、役割分担を決定。そして次は総会の準備・・・というところへ思いもかけない事態が出現。以後なす術もなく7月に。小生、20年余自治会活動に携わっていますがこのような事態は経験ありません。

しかし、色々と対策・処置を講ずれば、なんとか活動が出来るようになり、本年度の役委員による初会合を開きました。

今年後半の活動について話し合いましたが、実質殆どの活動が中止・延期という事態を重視し、今年度は自治会費の徴収を止めることにしました。それ以外の活動については、今後の事態の推移を注視し、自治会の皆様と協議の上決めていきたいと考えています。



東第一自治会長 福田 雅幸

今年度から自治会長を務めることになりました。住民の皆さんと共に「安心、安全で楽しいまちづくり」に取り組んで行きたいと思ひます。そして、高橋前会長の路線を継承させて頂き、「人間はお互い助け合って生きており、自治会活動を活性化することによって絆が強まる」の姿勢を基に、皆様と共に、地域住民の連携・絆の強化に向けて尽力してまいります。住民皆さんの「知恵とご意見を頂き」一緒に自治会活動を行ってまいります。ご支援ご協力をお願い申し上げます。